

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300033		
法人名	有限会社もろがみ		
事業所名	グループホーム両神		
所在地	岐阜県加茂郡白川町河岐711番地		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300033&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300033&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年8月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症状の有るお年寄りが毎日の生活を通して生き生きと明るく過ごして頂く事を目的にする。皆さんが少しでも安心して穏やかに暮らせることを大切にする。運営方針としては「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を掲げている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、役場の裏の町を一望できる高台にある。管理者をはじめ、職員一人ひとりが外部評価の趣旨を理解しており、昨年度の課題達成に向け、一丸となって取り組んできた。今年度は特に、「認知症について」「認知症ケアについて」を、外部から講師を招き、学習を重ね、認知症を前向きに捉え、効果的なケアに取り組み、サービスの質の向上に努めている。広い前庭には、草花を年中楽しめる本格的な花壇をつくり、利用者が花を眺め、季節を感じながら、癒しのある暮らしができるようにしている。管理・職員は、利用者の思いに寄り添い、楽しみながら、最後まで一緒に過ごすことができるように温かく支えている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有して実践に繋がっている、又その都度再確認し努力している。	利用者の、その人らしい暮らしを支えるために「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」の理念がある。管理者・職員は、地域での事業所の役割りを十分認識しながら、利用者のペースに合わせ、楽しい生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの活用も含めて少しずつではあるが繋がりを大切にして深めている。	地域の、活き活きサロンやシルバー人材センターのメンバーに、入浴や見守り、外出の同行等を有償で協力してもらっている。地域の人達とは顔なじみであり、外出の際は、親しく挨拶を交わしている。	グループホームや認知症に対する地域の人達の理解を、今より更に深めていくことが、事業所の今後の課題として認識されており、前向きで粘り強い取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の皆様は、この事業を理解して頂くことを目標として、催し物への参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。現在メンバーは6名で様々な内容をお伝えし、ご意見もいただける様にしている。	会議は、行政・民生委員・自治会長・地域包括支援センター・家族の参加で2ヶ月に1回開催している。事業所の現状、認知症ケアの理解、重度者の外出支援等が検討されている。参加者全員の意見や提案を受け入れ、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町福祉課の方のご協力を頂いており、何かにつけて報告したり、相談に乗って頂いたりと常に連絡を取り合っている。	町福祉課は、事業所の現状をよく把握してくれており、協力関係も構築されている。特に他町村からの利用手続きの相談をしたり、指導を受けている。運営推進会議にも欠かさず出席してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関しては、町の福祉課より実際に指導を受け、こちらの気付かないところを指摘されて改善した経緯もあるが、日頃から職員間で話し合いを密にしている。	身体拘束や虐待をしないケアに取り組んでいる。特に、言葉による抑制等(スピーチロック)も見逃さないようにしている。さらに、入浴時や夕方等、職員が人手不足になる時間帯に、地域の人達の協力を得て、施錠をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」と思われる行為はないが、「些細なこと」でも見逃しはしないように気を配り、折に触れ話し合っている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員を指導する事によって認識を深め、事例によって判りやすく説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約事項及び重要事項説明書については丁寧に説明し、疑問点についても納得して頂いている。今後はより明確な説明を考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多い為、その度に生活状況・介護計画の変更等についてお知らせしたり、サインを貰ったりしている。又「お知らせ」として便りを出す事も有る。	日曜日の面会者から、「管理者と話がしたいがいつもいない」との声があった。管理者は家族の意向を運営に反映し、日曜日の出勤を勤務に取り入れる等、利用者や家族の声を大切にし、即対応できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝ミーティング(ミニカンファレンス)を行い、自由に意見交換や提案等も聞き、改善点は早急に対処出来る様にしている。	毎朝のミニカンファレンスは、職員からの意見や提案等を気楽に出し合える環境となっている。「夜勤、日勤の仕事を明確に」等、職員からの提案も全職員が共有し合う等、明るく楽しく働ける職場作りに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「介護職員処遇改善」制度によって、年2回手当てが支給されるが、まだまだ充分ではないと認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は勤務状況に苦慮しながらも、出来る限り参加できるように努力している。また今年から年4回の講習会(外部講師による)を開始した。さらにカンファレンスでケアの質を高めるべく努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業のGHとの交流を行う為、働きかけを始めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前情報は実に大切で「これでよしという事はない」ということを痛感している為 利用者の担当ケアマネと努力して行く方向で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至までには家族との面談は数回行い、要望にみみを傾けているが、関係作りはとても重要であると認識を深めている現状である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況確認とご家族の要望からサービス内容を検討し、徐々に変更・追加して行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHの倫理規定の中にも盛り込まれている内容で、常に確認しあって暮らしを共にする者同士の関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活や身体的・精神的変化については面会時にご家族へ説明したり、必要に応じて電話をしたりして伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の来所については働きかけを行い、積極的に外出を促している。	面会に来てくれる家族や友人との関係を大切に、関係が継続できるよう働きかけている。地域のボランティアや介護支援者達との馴染みの関係作りへの支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所期間がながくなり、利用者同士が仲良くなって支えあったりしている関係の変化が多々見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方等には面会に行ったり、家族の相談に応じたりしている。契約終了した家族も時々来所されたりしていて、関係が断ち切れているとは思わない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の支援の中で心がけてはいるが、まだまだ困難な点が見られる。特に自己表現が出来ない利用者への注意・観察が大切であると認識している。	職員は見守り、観察等による気づきを大切に、利用者の思いや心身の状態を見極める力を養うことを目標の一つにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人・家族さらに入所前の担当ケアマネ等から情報収集はおこなっているが、まだまだ支援の途中で十分でないと感じることが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り・観察を行い、健康面や精神面の変化については毎日記録し「気付きシート」(モニタリング)を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で情報を共有し介護計画の把握に努め、計画変更に生かしている。家族を含めての計画作成が課題となっている。	面会に来た家族から、利用開始時のアセスメントの中で把握できなかった「持病」等を知り、介護計画に反映させている。毎朝のミニカンファレンス等から利用者一人ひとりの真の課題を導き出し、適切な介護計画の作成に、全職員で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミニカンファレンスに重点を置き「申し送りノート」を活用している。個別支援が生活の中で自然に取り組みされて来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスに心がけている。「自由とリスク」は課題となるが、その都度話し合って解決している。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を少しづつではあるが活用して支援に繋げているが、十分ではないと認識している。今後の働きかけは重要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向も聞き対応している。かかりつけ医と事業所の関係構築は徐々に出来て来ている。	本人・家族の希望を受け入れ、協力医を、かかりつけ医に全員が変更している。協力医による月に3回の往診があり、これまで通院介助をしていた家族の負担が減り、喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職(2名)と介護職の連携は出来ている。かなり綿密な伝達を行い支援出来るよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する時は家族や病院関係者との連携は勿論密に行っている。又入院後は面会を頻回に行って早期退院にもって行く努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは1名経験したが「家族・主治医の意向に添って、お手伝いさせて頂いた」というケースでした。方針を共有して取り組むことの大切さを痛感しました。	重度化に向けて、家族、協力医、職員で協議しながら対応する方針である。亡くなる3日前に自宅へ移して看取りを支援した1例がある。今後も、家族の希望があれば、終末期ケアに応じていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が身につけている訳ではないが、着実に実践力を養っていると見受けられる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・防災訓練を行ったり、地域住民の協力体制づくりを行っている。	消防署の指導の下、年2回の防火・防災訓練を実施している。夜間想定訓練も、随時実施している。近隣の人達と、防災について話し合い、協力体制が出来きつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が一人一人の人格を尊重して対応に心がけている。「介護してあげる」という姿勢ではなく「共に学び共に楽しむ」ことに慣れてきたようである。意識的な個別支援も行われるようになって来た。	職員は、管理者や外部講師から、「認知症」「認知症ケア」について基本から学んでいる。言葉掛け、声のトーン、その人らしさへの配慮や一人ひとり違うこと等、学んだことを日々のケアの中に活かし、プライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の対応が個別的になり見守り観察も自然に出来るようになって来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは有るものの、一人一人のペースと自由を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体の清潔には特別に心がけているが、無理じいしない方が良くと判断した時は自然の流れを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材調達はスーパー・生協・その他で行い、職員が上手に利用者を巻き込みながら、準備や片付けを行っている。自然にまたは意識的にでも出来るようになって来ている。	利用者の嗜好を把握し、楽しい献立づくりに反映させている。職員も、同じ食事をゆっくり味わい、準備、盛りつけ、片付け等も、共に行っている。朴葉寿司などの季節の料理を、一緒に作るのを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取及び水分補給の重要性は十分把握しており、嚥下状況も観察して食事内容を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清拭は欠かさない。各利用者の歯の状態に対応して行っている。特に昼食後は丁寧にしている。訪問歯科治療も必要に応じて利用している。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や排泄介助は一人一人の身体状況に合わせて行っている。立位保持が困難となった場合は安全を考えて、自室でのオムツ交換も行っている。	体調を崩し、立位が困難となっても、生活のなかでのリハビリを支援し、紙おむつから、安心パンツに切り替えることができた利用者が多い。排泄パターンに合わせた穏やかなケアにより、失敗の少ない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容には気を配り根菜類を多くすることと水分補給に心がけている。個人個人の排泄パターンを把握して、排便困難の対処はかなり丁寧にチェックし行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時間に入浴が出来る支援は出来ていない。(週3回としている)入浴嫌いな人でも誘導の方法を工夫して入浴して頂いている。生活習慣になりつつある。	週3回の入浴を基本としているが、夏の間は毎日シャワー浴をしている。入浴を拒否する人には、その人に合わせた話しかけを工夫し、応じてくれるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関してはかなり自由で、個々の状態・状況によって、日々変化は有るものの昼夜の逆転はないように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容と方法はきびしく指導し、確認作業に十分な注意を払うように話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・配膳・片付けや掃除・洗濯等職員が常に誰かと一緒に動いている状況が出来つつある。楽しい一日が過ごせるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、全く満足出来る状況にはなっていない。現在は数人の散歩・買い物に留まっているのが現状である。	利用者は、事業所の中で過ごすことが多く、屋上での外気浴で、戸外を代替している。車椅子の人でも戸外に出られるように、階段部分を改造している。電動車も備えて、重度者でも、戸外に出られるように、その活用を準備している。	外出を好まない利用者もいるので、職員と共に、開放感を体感できるように、戸外に出て、自然と触れ合うことの意義を、再確認されたい。



岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人ではあるが、職員が同行して買い物ができるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に出来る体制にしてあるが、番号は職員が押すようにしている。現状はごく少数の人だけである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる生活空間を保つように努力している。1階の広間でお茶を楽しんだり、散歩したり、草花の観賞も出来るようになった。	共用空間には、随所に季節の花や鉢物が設置され、利用者目を楽しませ、心を癒している。また、疲れたら横になれる畳のコーナーがある。広々としたキッチンでは、利用者と職員が語り合いながら一緒に調理をすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大部分の時間はホールや和室で過ごしている。それぞれの居室は昼食後の休養と夜間の睡眠の為に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	支援し易いような居室環境になっているが、家族や利用者の希望は出来る限り受け入れて対応している。	居室のベッドは備品になっており、全体的に家具類の持ち込みは少ないが、職員は、色とりどりのショールを加工し、各部屋の壁飾りにしている。利用者の心が癒されるように、居心地の良い居室環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や残存能力を生かす支援をしている。		